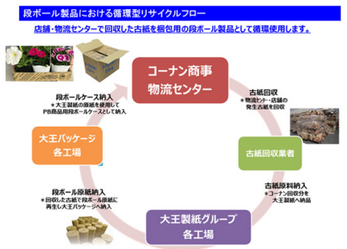
SDGs新聞	コーナン商事株式会社
不要になった「紙」がダンボールに生まれ変わる	

SDGsラジオを読んでみよう！

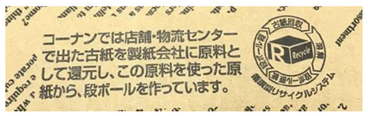
みなさんのおうちでは、いらなくなったダンボールはどうしていますか？
全国でホームセンターの「コーナン」を運営しているコーナン商事では、店舗・物流センターで排出される「ダンボール」をリサイクルして、「新たなダンボール」へと生まれ変わらせる取り組みを行っています。
これによって、リサイクルされるダンボールの量は、なんと1か月で約155トン。
他社による協力のもとで、不要になったダンボールを、店舗で販売する梱包用のダンボールや、植物を販売する際に使うトレーなどへと、リサイクルしています。
不要なダンボールを再利用して、新たなダンボールに。
資源を無駄にしない、このような取り組みがもっと広まれば、地球の未来はきっと明るいはず。
みなさんも、何かものを捨てる際に、これって、本当にリサイクルできないのか、ぜひ、考えてみてはどうでしょうか？

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：ダンボール製品における循環型リサイクルフロー
（コーナン公式HPより）

循環型リサイクルシステム ロゴ



画像参照：循環型リサイクルシステムロゴ（コーナン公式HPより）

画像参照：循環型リサイクルで生まれたダンボール（コーナン公式HPより）

ホームセンターの「コーナン」でおなじみのコーナン商事では、資源の無駄づかいを減らし、環境に貢献するために、地球に優しいさまざまな取り組みを行っています。その中のひとつがダンボールの「循環型リサイクル」です。他社による協力のもと、コーナンの店舗や物流センターで排出される「使用済みのダンボール」を回収し、「新たなダンボール」へと生まれ変わらせて、それらをさまざまな用途で用いています。

循環型リサイクルとは、「使えなくなったものを、まったく同じ価値のものへと生まれ変わらせるリサイクルの方法」です。「価値の低いものへと生まれ変わること」が多い一般的なリサイクルよりも優れている方法と言われ、近年さまざまな業界で取り入れられています。コーナン商事でも、この循環型リサイクルを用いて、店舗や物流センターで発生するダンボールのうち、月間で約155トン、全体の約13%のリサイクルを実現。新たに製造されたダンボールは商品の梱包に用いたり、購入した植物の苗を持ち帰る際に使うトレーなどに活用されています。

キーワード

ダンボール

紙を重ねていくつかの層にした板材のことを指し、主にものを包装したり、運んだりする際に用いられています。

循環型リサイクル

不要になった製品・素材を回収して再利用・再生し、資源を無駄にしないシステムを「循環型リサイクル」と呼び、「まったく同じ価値のものを作ること」が特徴のひとつです。

物流センター

商品が出荷されるまでのさまざまな作業（包装・保管など）を行う大規模な倉庫のことです。

対象ゴール

みなさんにできること！

リサイクルの種類・方法についてもっと理解を深めてみましょう。

おさらい

- リサイクルで作られたものは、元のものよりも価値が下がることが多い 。
- 「循環型リサイクル」とは、全く同じ価値のものを作り出すリサイクルのこと。
- コーナンで出る使用済みダンボールのうち、月間約155トン（全体の約13%）をリサイクルしている。

メモ

SDGsラジオ